

發句、

水無月はかち人ならぬ瀬々もなし、今おもへば、みなかち人のわたりかなと申べかりけり、敵川のむかひにうちいで、射矢雨のごとし、數万の軍兵、やす／＼とうちわたす、敵はすなはち引入ぬ、

〔東國紀行 宗牧〕今日は掛川のわたりまでと急ぎ侍りしを、天龍の舟渡河風ふきて、池田の宿ゆやが跡まで事とふほどに、見つけのこうの傳馬いひつくるあひだに暮たり。

〔東海道名所記 三〕小天龍 大天龍 舟渡しの川あり、武士には船賃なし、商人百姓には錢六文をとることさら物まうでのともがらには三疋五疋をかきましてとるなり。

〔諸國道中袖鏡〕天りう川、信州すはの湖水より流来る、東の瀬を大天龍、西を小天りうと云、舟わたらし也、船ちん十六文、大水にはこやすの森宮の前より舟に乗る。

〔梅花無盡藏 二〕渡天龍河就懸塚十六日(文明十七年九月午時踏ニ風波就懸塚、借宿先喫小焦餅)

急流近海棹知潮、先聽一聲婆餅焦、明夜定看小河月、借舟五貫大如橋、

〔東行日記〕天龍河

龍河流漲雨餘天濟度免難瀬與淵通力莫加舟檝利、馮虛何索羽衣仙、

大井川渡

〔名所方角抄 遠江〕菊川より東へ駒場原など、云所を過て、大井河と云大河、北より流たり、末は海へ流入、近し、底は石などながれ、水はにごりて瀬早く、舟渡りもなきなん河なり、かちにてわたるなり、さよの中山のかたに、かなやと云宿在、川の間一里あり、河の西は遠江なり、東向は駿河島田と云宿あり、

〔倭名類聚抄 六郡〕駿河國富士郡大井於保

〔羅山文集 六十一〕本朝地理志略